

17. 保健学研究科

(1) 保健学研究科の教育目的と特徴	17-2
(2) 「教育の水準」の分析	17-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	17-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	17-15
【参考】データ分析集 指標一覧	17-18

(1) 保健学研究科の教育目的と特徴

1. 教育目的

本研究科の教育理念は前期及び後期課程を通じた「ヘルスプロモーションの実践と確立」である。

この理念を達成するために、博士前期課程における教育目的として「全人的ケア」及び「チームケア」を据えて「ヘルスプロモーションの実践と確立」を目指している。博士前期課程の特徴として、がん専門看護師をはじめとする高度専門職を育成し、専門性の確立に貢献できる基礎的研究能力を備えた教育・研究者を養成している。助産師、がん看護専門看護師、医学物理士、細胞検査士などの資格取得が可能な専門職育成コースがあり、修了生は専門資格を活かした色々な医療分野で、医療のエキスパートとして活躍している。また医療現場で求められる管理職としての資質を学ぶことができる。

博士後期課程における教育目的としては「インタープロフェッショナルワーク」の実践と確立を据えて「ヘルスプロモーションの実践と確立」を目指している。博士後期課程の特徴として、前期課程から後期課程に進む中で、保健・医療・福祉に関係した教育プログラムや機器・技術の開発など独立した研究能力のレベルを高め、専門性がより高い教育・研究者を養成している。修了者には博士（保健学）の学位を与えるが、看護学分野では研究内容により博士（看護学）の称号を与える。

2. 特徴

2003年4月に大学院保健学研究科（博士前期課程）が、続いて2005年4月に大学院保健学研究科（博士後期課程）を設置した。2008年3月に博士後期課程の修了生を初めて輩出した。質の高い高度専門職業人養成のための新たな教育システムの設置を進めている。2008年度には、看護学分野にがん専門看護師養成コース、放射線技術科学分野に医学物理士コース、2013年度には、看護学分野に助産学コースを開設した。2017年度には、検査技術科学分野分野に細胞検査士コースを開設し、2020年度にゲノム医療サイエンティスト育成コースへの改編を実施した。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 6417-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- ディプロマポリシーおよび体系的に整備したカリキュラムポリシーを、大学ホームページに掲載している。 [1.0]
- 2018～2019年度にかけ、抽象的であった従来の学位授与方針を、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの整合性を高めるよう改訂すべく検討している。学部学生または修士院生を読者として想定し、進路先を具体的に例示して養成する人材像を示すとともに、学位授与に必要な要件と獲得すべき能力を明確に説明している。 [1.0]

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 6417-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- ディプロマポリシーおよび体系的に整備したカリキュラムポリシーを、大学ホームページに掲載している。 [2.0]
- 2018～2019年度にかけ、学位授与方針の改訂と整合すべく、抽象的であった従来の教育課程方針の改訂を検討している。教育プログラムの編成方針、コースワークとリサーチワークの授業編成、学習成果の評価の方針を具体的に説明している。 [2.0]

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料 6417-i3-1）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 6417-i3-2）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる

岡山大学保健学研究科 教育活動の状況

資料（別添資料 6417-i3-3～8）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

教員組織編成や教育体制の工夫とその効果

- 本研究科は博士前期課程1専攻と博士後期課程1専攻からなる。両課程にそれぞれ看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3分野を置く。本研究科の教員組織として、看護学分野に基礎看護学、成育看護学、臨床応用看護学、コミュニティヘルス看護学の4領域、放射線技術科学分野に医用情報理工学と放射線健康支援科学の2領域、検査技術科学分野に病態情報科学と生体情報科学の2領域を置き、各領域に教員を配置している。 [3.2]
- 2018年度の教員組織の女性教員比率は、教授33%、准教授60%、教員全体でも52%と約半数であり、ダイバーシティを体現したバランスの良い構成となっており、専任教員数も、大学院設置基準を十分に満たしている。 [3.2]
- 体系的な教育課程の編成は、チームケア・全人的ケアを志向した教育課程と、コースワークとリサーチワークを組み合わせた教育課程により編成している。 [3.2]
- チームケア・全人的ケアを志向した教育課程は、根幹的教育概念であるヘルスプロモーション及び教育理念の全人的ケア・チームケアを具現化するため、博士前期課程では全分野共通のコア科目として、ヘルスプロモーション科学、医療倫理学、危機管理学、医療対話学、国際保健学を、博士後期課程ではインタープロフェッショナルワーク論を据えている。特に博士後期課程では、インタープロフェッショナルワーク論を必修科目とし、全人的ケアをチームとして提供するための基礎を学ぶ。 [3.2]
- コースワークとリサーチワークを組み合わせた教育課程は、根幹的教育概念ヘルスプロモーションを実践できる人材の養成のため、博士前期課程、後期課程では、各分野でコースワークとリサーチワークを組み合わせて教育課程を編成し、カリキュラムマップとして分かりやすく提示している。博士前期課程では、学部での基礎教育、現場での体験をベースに、専門性を深化し研究の基盤を学び、医療のエキスパートを目指し、博士後期課程ではさらに研究テーマを定めて研究職、教育職の基盤を学ばせている。 [3.2]

社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組

- 一般コースのほか、高度専門職業人の養成のための特別コースを設置している。
[3.2] [3.3]
- 看護学分野では、第1期末の2009年度にがん看護専門看護師養成コースを開設し、第2～3期に軌道に乗せた。他の大学院の多くがフルタイムの学生を対象とす

岡山大学保健学研究科 教育活動の状況

るのに対し、本学では社会人学生を在職のまま専門看護師にするという社会的ニーズに応えた教育課程を編成し、認定審査合格者を輩出した。 [3.2] [3.3]

- 高い学識と高度な実践能力を有する助産師の必要性を踏まえ、2012年度から博士前期課程に助産学コースを設け、大学院では異例の59単位を修了要件とするほか、実習期間を充実させ、研究コース同様に修士論文作成も義務づけ、第3期も継続して助産師を輩出している。 [3.2] [3.3]
- 検査技術科学分野では、第3期に入って2017年度に、細胞診断士、生殖補助医療技術者等の社会のニーズに応える専門職の養成を行う細胞検査士コースを開始し修了生を輩出するとともに、2020年度から、遺伝子分析科学認定士、バイオインフォマティクス技術者の認定資格も取得可能な育成コースであるゲノム医療サイエンティスト育成コースへの改編を実施した。 [3.2] [3.3]
- 放射線技術科学分野では、今後のがん医療に不可欠ながん放射線科学コース、医学物理士コースを設置し、第2～3期も継続して修了生を輩出している。ほか、原子力工学の知識を有し、原子力産業、放射性廃棄物処理に従事可能な技術者養成も行った。いずれも、社会のニーズに応えた新たな教育課程等を編成し、実績を残した点で、大きな改善、向上があった。 [3.2] [3.3]

保健学専攻（博士前期課程）特記事項

- 本研究科では、それぞれアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを定め、カリキュラムマップとともに公開している。 [3.1]
- 2019年度に、複数指導教員体制に関する内規を策定し、正指導教員を補佐して学生の研究指導に協力するための副指導教員を配置可能とし、数人の副指導教員を指定した（別添資料 6417-i3-9）。 [3.1]
- 学位論文審査は、審査委員会を設置して、複数の教員をもって組織し公開にて行うが、指導教員は、指導学生の学位論文審査を行う審査委員会の委員になることはできない。 [3.1]
- 2019年度に「優れた研究業績を上げた者」に対する規程を改訂し、社会での実践のため早期修了できるよう制度を改訂した。 [3.1]

保健学専攻（博士後期課程）特記事項

- 本研究科では、それぞれアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを定め、カリキュラムマップとともに公開している。 [3.1]
- 2019年度に、複数指導教員体制に関する内規を策定し、正指導教員を補佐して学生の研究指導に協力するための副指導教員を配置可能とした（別添資料 6417-i3-9）（再掲）。 [3.1]
- 学位論文審査は、審査委員会を設置して、複数の教員をもって組織し公開にて行

岡山大学保健学研究科 教育活動の状況

うが、指導教員は、指導学生の学位論文審査を行う審査委員会の委員になることはできない。 [3.1]

- 「優れた研究業績を上げた者」に対しては、社会での実践のため早期修了制度を実施している。 [3.1]

<必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 6417-i4-1）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料（別添資料 6417-i4-2～3）
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 6417-i4-4）
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料 6417-i4-5）
- ・ 指標番号 5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

保健学専攻（博士前期課程）特記事項

- 高度医療専門職の養成及び臨床からのトランスレーショナルリサーチを促進する意味から、社会人学生を積極的に受け入れており、前期課程在籍者の半数前後が社会人学生である。この社会人学生に対する学習支援のため、夜間開講、土曜日開講、e-learning などを実施している。本研究科が開設する各コースのうち、助産学コース以外はどのコースも社会人学生が在籍することが可能であり、特にがん看護専門看護師養成コースは、在職のままその資格を取得できるように、授業の開講時間や実習の実施時期に工夫を凝らしている。 [4.1]
- 学部とのシームレスな連携により、大学院への進学を促進するため、2019年度に、大学院科目を学部4年次学生が履修できるように規程を改定し、大学院科目の一部を大学院連携科目とし、得られた単位を大学院進学後に利用できるように制度を改定した（別添資料 6406-i4-6）。 [4.1]
- グローバル化を推進するため、国際学会などでの発表を、修了要件単位として認定する科目「グローバル・プレゼンテーション」を2017年度に新設し、2019年度までに10名以上の学生が海外での国際学会で発表し、単位を獲得した。さらに2017年度に海外での研究活動を修了要件単位として認定する科目「国際研究インターンシップ」を新設した（別添資料 6417-i4-7）。 [4.1]

保健学専攻（博士後期課程）特記事項

- 高度医療専門職の養成及び臨床からのトランスレーショナルリサーチを促進する

岡山大学保健学研究科 教育活動の状況

意味から、社会人学生を積極的に受け入れており、後期課程在籍者の9割前後が社会人学生である。この社会人学生に対する学習支援のため、夜間開講、土曜日開講、夏季集中開講、e-learning などを実施している。 [4.1]

- グローバル化を推進するため、国際学会などでの発表を、修了要件単位として認定する科目「グローバル・プレゼンテーション」を2017年度に新設し、2019年度までに10名以上の学生が海外での国際学会で発表し、単位を獲得した。さらに2017年度に海外での研究活動を修了要件単位として認定する科目「国際研究インターンシップ」を新設した（別添資料6417-i4-7）（再掲）。 [4.1]

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料6417-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料6417-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料6417-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料6417-i5-4～14）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

保健学専攻（博士前期課程）特記事項

- 効果的な研究指導のため、2019年度から複数教員指導体制を実施し、必要に合わせて副指導教員をおいて実践している。 [5.1]
- 高度医療専門職の養成及び臨床からのトランスレーショナルリサーチを促進する意味から、社会人学生を積極的に受け入れており、前期課程在籍者の半数前後が社会人学生であり、正規の大学院生として、医療機関や教育機関等の職場に在職したまま夜間・土曜日開講の講義を受けている。社会人学生に対する支援のため、夜間や土曜日開講の他、長期履修制度を実施している。 [5.1]
- コア科目の教育内容と進め方について、毎年、学生の授業評価アンケートと聞き取り調査の結果、研究成果、修了後の進路をもとに、担当教員と教務委員で検討して、内容の充実、レベルアップを図っている。例えば、疫学研究や多数のヒトの検体を分析する研究においては、十分な疫学、統計学の知識がないためデータの解析に苦慮している学生が多いことへの対応として、後期課程に実践科学統計学という専門家によるシリーズ講義を設け、博士前期課程学生も受講できるようにした。また医歯薬学総合研究科で開講する医療統計学講義・演習、疫学講義の履修もできる

岡山大学保健学研究科 教育活動の状況

ようにした。 [5.1]

保健学専攻（博士後期課程）特記事項

- 効果的な研究指導のため、2019年度から複数教員指導体制を実施し、必要に合わせて副指導教員をおくことが可能となっている。 [5.1]
- 高度医療専門職の養成及び臨床からのトランスレーショナルリサーチを促進する意味から、社会人学生を積極的に受け入れており、後期課程在籍者の9割前後が社会人学生である。社会人学生に対する支援のため、夜間や土曜日開講や夏季集中開講の他、長期履修制度を実施している。 [5.1]

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 6417-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 6417-i6-2）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 6417-i6-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

保健学専攻（博士前期課程）特記事項

- 成績評価の方法と基準は、学生便覧に明記している。成績評価等に対する疑問などがある場合の問い合わせ方法及び内容等を、学生便覧に明記している。 [6.1]
- 博士前期課程の2019年度前期の成績評価結果はAあるいはA+が主体で概ね良好である。 [6.1]
- 成績評価はWebを通じて学生に開示されるが、2016年度から、成績評価に対して学生には、より詳しい根拠を教員に示すことを要求する権利を与えている。 [6.1]

保健学専攻（博士後期課程）特記事項

- 成績評価の方法と基準を、学生便覧に明記している。成績評価等に対する疑問などがある場合の問い合わせ方法及び内容等を、学生便覧に明記している。 [6.1]
- 博士後期課程の2019年度前期の成績評価結果はA+が主体で概ね良好である。 [6.1]
- 成績評価はWebを通じて学生に開示されるが、2016年度から、成績評価に対して学生には、より詳しい根拠を教員に示すことを要求する権利を与えている。 [6.1]

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 6417-i7-1）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 6417-i7-2～6）
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料6417-i7-7）
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（6417-i7-2～5）（再掲）
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料 6417-i7-2～5）（再掲）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

保健学専攻（博士前期課程）特記事項

- 保健学研究科教授会に、委員長と各分野教員2名（看護学分野のみ3名）からなる教務委員会を置いている。教務委員会は毎月1回（8月は除く）、臨時で年2回程度開催している。学生の進級及び修了判定は、教務委員会で審議された後、専任教授が全員出席する教授会が行っている（別添資料 6417-i7-4）（再掲）。 [7.1]
- 学位論文等の評価基準は学生に公開しているが、2019年度に学位論文の満たすべき水準、審査体制と審査基準を明確にまとめた形で、学生に対してより明確になるように改訂中である。 [7.2]

保健学専攻（博士後期課程）特記事項

- 保健学研究科教授会に、委員長と各分野教員2名（看護学分野のみ3名）からなる教務委員会を置いている。教務委員会は毎月1回（8月は除く）、臨時で年2回程度開催している。学生の進級及び修了判定は、教務委員会で審議された後、専任教授が全員出席する教授会が行っている（別添資料 6417-i7-5）（再掲）。 [7.1]
- 学位論文等の評価基準は学生に公開しているが、2019年度に学位論文の満たすべき水準、審査体制と審査基準を明確にまとめた形で、学生に対してより明確になるように改訂中である。 [7.2]

<必須記載項目8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 6417-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 6417-i8-2）
- ・ 指標番号1～3、6～7（データ分析集）

岡山大学保健学研究科 教育活動の状況

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 入学定員をほぼ充足しており、夜間・休日に授業を行う等の工夫により、現職の社会人学生を正規生として多数受け入れている（別添資料 6417-i8-3）。 [8.1]

保健学専攻（博士前期課程）特記事項

- 入学者選抜方法の工夫とその効果として、優秀な学生を獲得するための取組では、博士前期課程では、定員はほぼ毎年満たしている。 [8.1]
- 本研究科が入学者として求める学生像や必要な水準等を示したアドミッションポリシーを作成し、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーとともにホームページ等で公表し、周知を図っている。 [8.1]
- 入学者の選抜では、特に助産師、がん看護専門看護師等、高度医療専門職の養成を目的としたコースで優秀な学生を確保するため、学力に加えて、志願者の適性、目的意識、コミュニケーション能力等の口述試験及び英語試験を入試科目に加えている。 [8.1]
- 社会人学生の受入れに関して、高度医療専門職の養成及び臨床からのトランスレショナルリサーチを促進する意味からも、社会人学生を積極的に受け入れている。博士前期課程は在籍者の2割から6割程度が社会人学生である。ここでいう社会人学生とは、医療機関や教育機関等の職場に在職したまま夜間・土曜日開講の講義を受けている学生、すなわち正規の大学院生である。本研究科が開設する各コースのうち、助産学コース以外ほどのコースも社会人学生が在籍することは可能であり、特にがん看護専門看護師養成コースは、他の大学院のコースでは社会人受入れが少ない中で、在職のままその資格を取得できるように、授業の開講時間や実習の実施時期に工夫を凝らしている（別添資料 6417-i8-3）（再掲）。 [8.1]

保健学専攻（博士後期課程）特記事項

- 入学者選抜方法の工夫とその効果として、優秀な学生を獲得するための取組では、博士後期課程でも、定員はほぼ毎年満たしている。 [8.1]
- 本研究科が入学者として求める学生像や必要な水準等を示したアドミッションポリシーを作成し、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーとともにホームページ等で公表し、周知を図っている。 [8.1]
- 入学者の選抜では、高度医療専門職の養成を目的としたコースで優秀な学生を確保するため、学力に加えて、志願者の適性、目的意識、コミュニケーション能力等の口述試験及び英語試験を入試科目に加えている。 [8.1]
- 社会人学生の受入れに関しては、高度医療専門職の養成及び臨床からのトランスレショナルリサーチを促進する意味から、社会人学生を積極的に受け入れている。博士後期課程は9割前後が社会人学生である。社会人学生とは、医療機関や教

岡山大学保健学研究科 教育活動の状況

育機関等の職場に在職したまま夜間・土曜日開講の講義を受けている学生、すなわち正規の大学院生である。本研究科が開設する各コースはどのコースも社会人学生が在籍することは可能であり、在職のまま受講できるように、授業の開講時間や実習の実施時期に工夫を凝らしている（別添資料 6417-i8-3）（再掲）。 [8.1]

<選択記載項目 A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 6417-iA-1）
- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

保健学専攻（博士前期課程）特記事項

- 第3期に入って、前期課程では、岡山大学－中国東北部大学院留学生交流プログラム（0-NECUS）や文部科学省大学の世界展開力強化事業タイプA：「キャンパス・アジア」プログラムを開始し、特別聴講学生、研究生の受入は、2016-2017年度は0人であったが、2018年度には5人、2019年度は2人と増加しつつある。正規の外国人留学生在籍者数も、2016～2017年度は0人であったが、2018年度には1人、2019年度は3人と増加しつつある（添付資料 6417-iA-2～3）。 [A.1]
- 2017年度に「グローバル・プレゼンテーション」「国際研究インターンシップ」という科目を新設し、国際学会参加の準備や海外での研修など国際活動として行った実践型アクティブラーニングの内容を単位化するとともに、卒業要件単位として認めている。2017～2019年度に6人の学生が「グローバル・プレゼンテーション」の単位を取得している（添付資料 6417-iA-3）（再掲）。 [A.1]

保健学専攻（博士後期課程）特記事項

- 第3期に入って、後期課程に、Post-0-NECUS や文部科学省国費留学生をはじめとする外国人留学生や研究生の受け入れを開始した。2016～2019年度の特別聴講学生、研究生の受入は1人であった。正規の外国人留学生在籍者数も、2016年度には2人、2017年度には3人、2018年度には3人、2019年度は2人と一定数を維持している。増加する外国人学生に対する特別なコア科目として2016年度から「Introduction course for health sciences」を開講した。2017年度に「グローバル・プレゼンテーション」「国際研究インターンシップ」という科目を新設し、国際学会参加の準備や海外での研修など国際活動として行った実践型アクティブラーニングの内容を単位化するとともに、卒業要件単位として認めている。2017～2019年度に5人の学生が「グローバル・プレゼンテーション」の単位を取得してい

岡山大学保健学研究科 教育活動の状況

る（添付資料 6417-iA-2～3）（再掲）（添付資料 6417-iA-4）。 [A. 1]

<選択記載項目 B 地域・附属病院との連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

保健学専攻（博士前期課程）特記事項

- 高度医療専門職の資格取得について、第 2 期に設置した助産学コースは第 2～3 期をとおして助産師国家試験の合格率はほぼ 100%を維持している。 [B. 1]
- 2007 年度から、保健学研究科「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム（文部科学省 再チャレンジ支援プログラム）を開講し、母子保健、産科医療、子育て・虐待防止のための地域行政への提案、リカレント教育による実践人の育成を行っている。中四国はもとより、全国から就労・非就労助産師が 1 年間にわたり受講している。受講者は、第 2～3 期をとおして例年約 20 人程度が受講している。公開セミナーには、第 2 期では 2,307 人、第 3 期では現在までの途中にてすでに 1,905 人が参加している。このプログラムは、文部科学省の「大学等の履修証明制度」を適用可能なリカレントプログラムとして開設し、学長からは、修了者に対して法に基づく履修証明書（Certificate）を交付できる。さらに、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして、文部科学大臣より「職業実践力育成プログラム」（BP）としても認定されている。現在、受講料を徴収して実施している。 [B. 1]
- 「学びの空間」であるリプロカフェを拠点に、周産期医療は勿論のこと、不妊・不育、子育て支援、性教育、LGBT 支援など、幅広い分野で活躍できるスーパー助産師を育成、現在までに 300 名以上の学生・助産師・看護師が受講している（助産ネット）（別添資料 6417-iB-1）。 [B. 1]
- 地域の医療人のニーズに応えるべく、診療放射線技師の社会人に対するリカレント教育として開設したがん放射線科学コース（インテンシブ）のセミナーには、第 1～3 期に延べ 3,218 名の社会人が参加し、各種資格試験においても合格者の多数を占めた。さらに、岡山県診療放射線技士会等に協力して、各種講習会を開催した（別添資料 6417-iB-2）。 [B. 1]

<選択記載項目 C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 研究科内での研究成果共有、学生の教育・研究力向上を主目的として、2004年度から年1回オープンフォーラムを開催しており、毎年多くの学部学生、大学院生が参加している。第1期では本研究科を対外的に認知させることが目的であったが、第2期は、学生にフォーラムへの参加を義務づけ企画段階から参画させることで、保健学について深く考えさせるとともに、医療現場への臨場感を体験することが将来の保健・医療・福祉の担い手としてのモチベーション向上に有効だった。第3期の2019年度より「外部評価委員会」を同時開催し、その結果を教育に反映させて教育の改善に努めている（別添資料6417-iC-1）。 [C.1]
- 前期課程、後期課程とも、セメスタ毎に、受講学生に授業評価アンケートを実施し、その評価に対する各科目担当教員による科目内容の改善を行っている（別添資料6417-iC-2）。 [C.2]
- 本研究科の教員は、本学教育開発センターFD委員会に委員として参画するとともに、全学FD活動「桃太郎フォーラム」に毎年平均10名が参加し、教育力等の向上に努めている。また、英語によるコースワークを行う教員は、海外留学生の受入れ増加に合わせて、英語授業セミナーを受講している（別添資料6417-iC-3）。 [C.1]
- 教育指導体制の明確化のため、保健学研究科教授会に、委員長と各分野教員2名（看護学分野のみ3名）からなる教務委員会を置いている。2018年度は教務委員会を14回開催した。学生の進級及び修了判定は、教務委員会で審議された後、専任教授が全員出席する教授会が行っている。カリキュラム編成、シラバス作成等の教育の企画も教務委員会が担当している。その前段階として、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の各分野の教授による分野毎の審議が行われており、教授会以前にダブルチェックが働く仕組みとなっている（別添資料6417-iC-4）。 [C.1]
- 根幹的教育概念であるヘルスプロモーション教育のコア科目について、毎年、学生の授業評価アンケートと聞き取り調査の結果、研究成果、修了後の進路をもとに、担当教員と教務委員で検討して、内容の充実、レベルアップを図っている。特に第3期には、グローバル化を推進し、海外からの受け入れ学生の増加、海外での学生活動の増加に合わせて、2016年度「Introduction course for health sciences」、2017年度「グローバル・プレゼンテーション」、2017年度「国際研究インターンシップ」などの新科目を開講した（別添資料6417-i4-2～3）（再掲）。 [C.0]

<選択記載項目D リカレント教育の推進>

岡山大学保健学研究科 教育活動の状況

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト
のチラシ掲載場所 (別添資料 6417-iD-1)
- ・ 指標番号 2、4 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

保健学専攻(博士前期課程) 特記事項

- 2007年度から、「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム(文部科学省再チャレンジ支援プログラム)を開講し、母子保健、産科医療、子育て・虐待防止のための地域行政への提案、リカレント教育による実践人の育成を行っている。中四国の他、全国から就労・非就労助産師が1年間にわたり受講している。受講者は、第2～3期をとおして例年約20人程度が受講している。公開セミナーには、第2期では2,307人、第3期では現在までの途中にてすでに1905人が参加している。このプログラムは、文部科学省の「大学等の履修証明制度」を適用可能なリカレントプログラムとして開設し、学長から修了者に対して法に基づく履修証明書(Certificate)を交付できる。大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして、文部科学大臣より「職業実践力育成プログラム」(BP)としても認定され、現在、受講料を徴収して実施している。[D.1]
- 「学びの空間」であるリプロカフェを拠点に、周産期医療は勿論のこと、不妊・不育、子育て支援、性教育、LGBT支援など、幅広い分野で活躍できるスーパー助産師を育成、現在までに300名以上の学生・助産師・看護師が受講している(助産ネット)(別添資料6417-iD-2～4)(別添資料6417-iB-1)(再掲)。[D.1]
- 地域の医療人のニーズに応えるべく、診療放射線技師の社会人に対するリカレント教育として開設したがん放射線科学コース(インテンシブ)のセミナーに、第1～3期に延べ3,218名の社会人が参加し、各種資格試験においても合格者の多数を占めた。さらに、岡山県診療放射線技士会等に協力して、各種講習会を開催した(別添資料6417-iD-5～6)。[D.1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目 1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 6417-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 6417-ii1-2）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

保健学専攻（博士前期課程）特記事項

- 標準修業年限内修了率は、博士前期課程は第2期 69～100%、第3期 89～93%で、第2～3期をとおして平均 83%の水準が維持されている。一見低い値に映るかもしれないが、本研究科は博士前期課程在籍者の約 25%が社会人学生であることを考慮すると、修了状況は良好といえる。 [1.1] [1.2]
- 高度医療専門職の資格取得について、第2期に設置した助産学コースは第2～3期をとおして助産師国家試験の合格率はほぼ 100%を維持している。がん看護専門看護師も、第1期の資格取得者はいなかったが、コース設置後の第2～3期では13名の合格者を輩出した。放射線技術科学分野では、今後のがん医療に不可欠な専門的医療人の育成のため医学物理士コースを設置し、医学物理士、放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師など専門的医療人を輩出している。検査技術科学分野では、2017年度に細胞検査士の資格取得のための細胞検査士コースを開設し、2019年度に2名の細胞検査士を輩出した（別添資料 6417-ii1-3～5）。 [1.1] [1.2]
- 博士前期課程の学生は国内外で多数の学会発表を行っており、2017～2019年度に6人の学生が「グローバル・プレゼンテーション」の単位を取得している（別添資料 6417-iA-3）（再掲）。 [1.1] [1.2]

保健学専攻（博士後期課程）特記事項

- 標準修業年限内修了率は、博士後期課程は第2期 38%、第3期 27%であった。第2～3期平均の 20%は一見低い値に映るかもしれないが、本研究科では博士後期課程の9割前後が社会人学生であり、長期履修制度を活用する者が多いことを考慮すると、修了状況は良好といえる。 [1.1]
- 博士後期課程の学生は国内外で多数の学会発表を行っており、2017～2019年度に5人の学生が「グローバル・プレゼンテーション」の単位を取得している（別添資料 6417-iA-3）（再掲）。 [1.1] [1.2]

岡山大学保健学研究科 教育成果の状況

<必須記載項目 2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

保健学専攻（博士前期課程）特記事項

- 博士前期課程では期待される水準にある。2018年度の就職率は100%であり、安定的な就職状況が確保されている。第2～3期を通じて、博士前期課程は約7割の学生が保健・医療・福祉機関に就職し、教育機関に就職する者が約6%、博士後期課程への進学が約10%で、高度専門職業人、教育・研究者を養成するという本研究科の人材養成目的を果たすとともに、保健医療福祉機関や教育機関で、助産師や医学物理士等として活躍するという進路目標を達成している。進路・就職状況、その他の状況から判断される在学中の学業の成果は、高い就職率と大学教員・研究者の養成の達成として反映されている（別添資料 6417-ii2-1）。 [2.1]
- 博士前期課程では、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3分野の学生は共通の必修科目を履修する。共通必修科目は3分野の教員が協力してオムニバス方式の講義を行う等、組織的に研究者の育成を行っている。本研究科の学生は医療機関の職員のみならず医療系教育機関の教員となる者や現職教員の学生が多く、大学教員養成の面でも重要な役割を果たしている（別添資料 6417-ii2-2）。 [2.1]
- 博士前期課程には、がん看護専門看護師養成コース、助産学コース、がん放射線科学コース（医学物理士コース）、ゲノム医療サイエンティスト育成コースを開設しており、研究マインドをもった高度専門職業人養成大学院としての機能も果たしている（別添資料 6417-ii2-3）。 [2.1]

保健学専攻（博士後期課程）特記事項

- 博士後期課程では期待される水準にある。2018年度の就職率は100%であり、安定的な就職状況が確保されている。第2～3期を通じて、博士後期課程は約7割の学生が教育機関に就職している。博士後期課程修了後、教育機関においてキャリアアップにより、学生の教育と研究を担当しており、高度専門職業人、教育・研究者を養成するという本研究科の人材養成目的を果たすとともに、保健医療福祉機関や教育機関で活躍するという進路目標も達成している。進路・就職状況、その他の状況から判断される在学中の学業の成果は、高い就職率と大学教員・研究者の養成の達成として反映されている（別添資料 6417-ii2-4～5）。 [2.1]

<選択記載項目 A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
(別添資料 6417-iiA-1)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

保健学専攻（博士前期課程）特記事項

- 全体的な満足度、教育（講義・演習・実習等）、研究（研究課程、論文作成、論文投稿、学位審査等）の満足度は、いずれも全員が「良い」以上であり、評価されたのは、社会人が受講可能な夜間時間帯の開講、論文作成に必要な知識を学べる科目などであった。 [A.1]

保健学専攻（博士後期課程）特記事項

- 全体的な満足度、教育（講義・演習・実習等）、研究（研究課程、論文作成、論文投稿、学位審査等）の満足度は、いずれも「たいへん良い」であり、評価されたのは、社会人に配慮した受講形態であった。 [A.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。